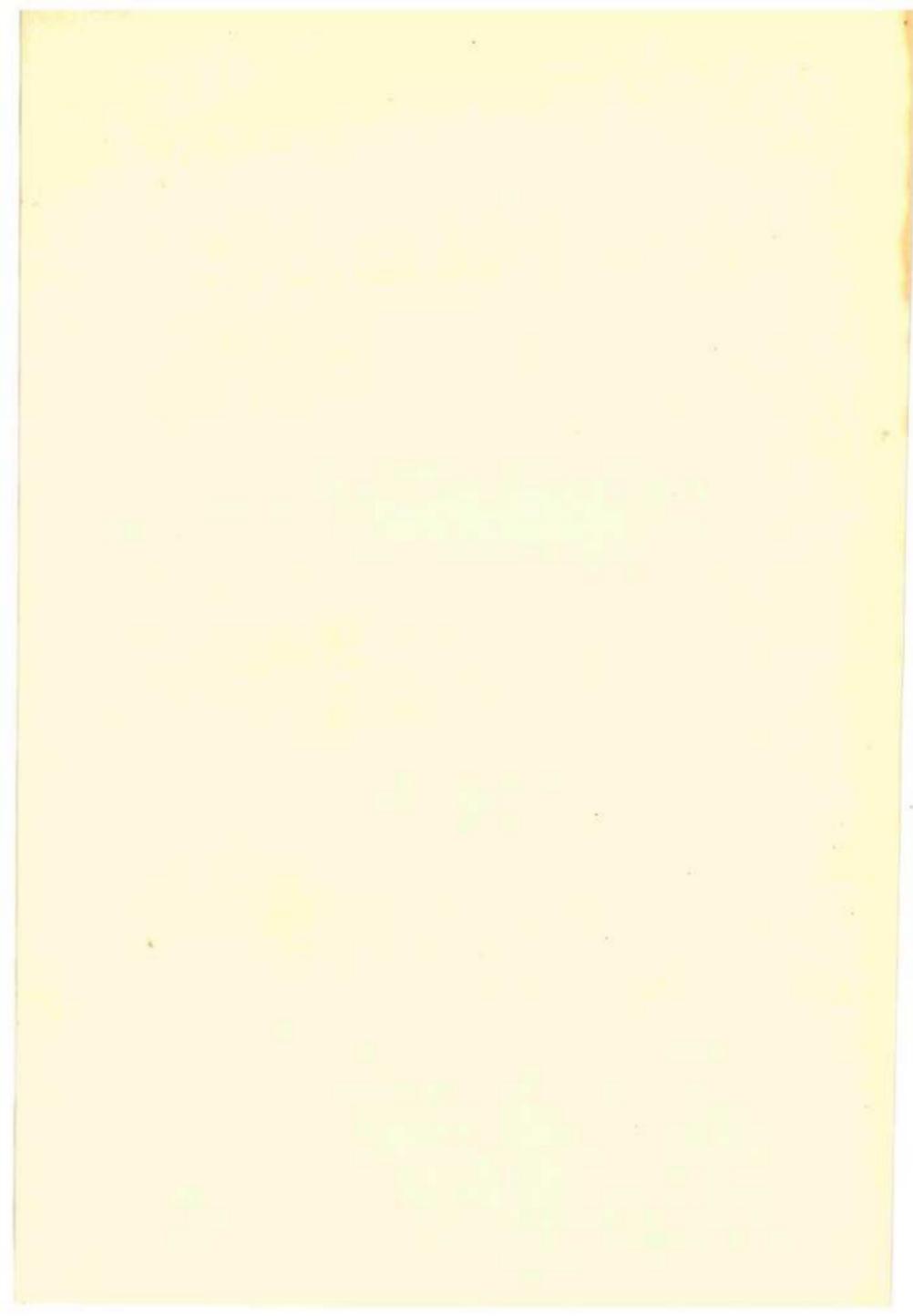


高田金鑄原遺跡

1984

掛川市教育委員会



高田金鑄原遺跡 発掘調査概要

1984

掛川市教育委員会

序

生涯学習都市として発展しつつある掛川市は、道路の新設や拡張をはじめとして、宅地の造成や、開墾、圃場整備などの社会・農業開発が急速に進み、埋蔵文化財に対する事態も困難になりつつあるのが現状であろうかと思います。

埋蔵文化財はご存知のように地下に埋もれているものが多く、知らないまゝに開発される危険度の高いものであります。

このようななかで、このたび土地所有者の深いご理解によって、茶園改築に先だっての事前緊急発掘調査が周到な準備のもとで実施されました。そして、原始時代の生活の跡である住居跡や埋葬塚が発見されて、歴史の一頁を埋めることができましたことは大きな喜びであります。

こゝに、発掘調査に際して、土地所有者、地元関係者および関係諸機関に対し深く感謝申しあげるとともに、本書が郷土の歴史を知る資料として役立てば誠に幸甚であります。

昭和 59 年 3 月

掛川市教育委員会
教育長 伊藤 昌明

例　　言

1. 本書は、昭和58年度文化財保護事業として国および静岡県の補助を得て掛川市教育委員会が調査主体となって実施した高田金鏗原遺跡の発掘調査概報である。
2. 調査は、掛川市教育委員会の 岩井克允が担当した。
3. 本書の執筆・実測図の作成・整理、浄書、写真撮影も岩井が担当した。
4. 調査の実施にあたって土地所有者の 鈴木稔氏 など多くの方々にご協力いただいた。

目 次

序にかえて	
例 言	
I 位置と環境	1
II 経 過	3
1. 調査に至る経過	3
2. 調査経過	3
III 調 査	6
1. 土 層	6
2. 遺 構	6
3. 遺 物	24
IV ま と め	24

挿 図 目 次

第 1 図	位置図および周辺遺跡分布図	2
2	高田金鉢原遺跡周辺環境図	4
3	遺構全体図	5
4	竪穴住居跡実測図 (1)	7
5	" (2)	8
6	" (3)	9
7	" (4)	10
8	" (5)	11
9	小竪穴実測図	14
10	土塙墓実測図 (1)	15
11	" (2)	16
12	" (3)	17
13	" (4)	18
14	" (5)	19
15	円形周溝墓実測図	22

表 目 次

表 1	竪穴住居跡一覧表 (1)	12
表 2	小竪穴一覧表 (2)	13
表 3	土塙墓一覧表	20
表 4	円形周溝墓計測表	22
表 5	溝状遺構一覧表	23

図版目次

I	高田金鉄原遺跡（○印）（上空南から）	25
II	(1) 溝状遺構 1、土 墓 26、竪穴住居跡 15、16、17、21（東から）	26
	(2) 南区遺構を北西から望む	26
III	(1) 溝状遺構 1（右）、3（左）、4（中央）（南区北端から）	27
	(2) 溝状遺構 1（南区北端から）	27
IV	(1) 竪穴住居跡 7、8、9、11、12、59（南区北端から）	28
	(2) 竪穴住居跡 2、3、溝状遺構 2、南端部（南区北端から）	28
V	(1) 竪穴住居跡 42、43、44、45、円形周溝墓 2（北区中央から西側を望む）	29
	(2) 竪穴住居跡 26、土 墓 52、構状遺構 1（北区東側から）	29
VI	(1) 竪穴住居跡 23、24、25、26、溝状遺構 1（北区東側南端から）	30
	(2) 竪穴住居跡 14、29、30、31、32、33、34、35、36、	30
	（北区中央南端部から）	
VII	(1) 溝状遺構 2 円形周溝墓の周溝（北から）	31
	(2) 竪穴住居跡 33、39、40、41、円形周溝墓（南から）	31
VIII	(1) 竪穴住居跡 4（北から）	32
	(2) 竪穴住居跡 4、5（北から）	32
IX	(1) 竪穴住居跡 7、5（南西から）	33
	(2) 竪穴住居跡 14（北西から）	33
X	(1) 竪穴住居跡 16、17、（北から）	34
	(2) 竪穴住居跡 18、19（北から）	34

図版XII	(1) 堪穴住居跡 40、41、円形周溝墓主体部（北西から）	35
	(2) 円形周溝墓主体部（南から）	35
XIII	(1) 土塙墓 14、15、16、17、18（北から）	36
	(2) 土塙墓 30（北から）	36
XIV	(1) 土塙墓 34（東から）	37
	(2) 土塙墓 25、52（東から）	37
XV	(1) 出土遺物（土器）	38
	(2) 出土遺物（土器）	38
XVI	(1) 出土遺物（土器）	39
	(2) 出土遺物（石器）	39

I 位置と環境

1. 位 置

掛川市内を東西に通過する国道一号の大池地内から、北西に分岐している県道40号・掛川一太電線を3kmほど進み、富部地内で国鉄二俣線の二反田踏切を渡り、西に向かって坂道を登ると岡津原にでる。この台地を西に向かって進み、市道原川一各和線を横切り原野谷川を渡って坂道を約200m登ると各和原段丘が広がっている。金塚古墳はこの段丘を登りつめる20mほど手前の左側に位置している。地籍は掛川市各和字金塚1892-1・1892-3・1892-4である。

2. 自然的環境

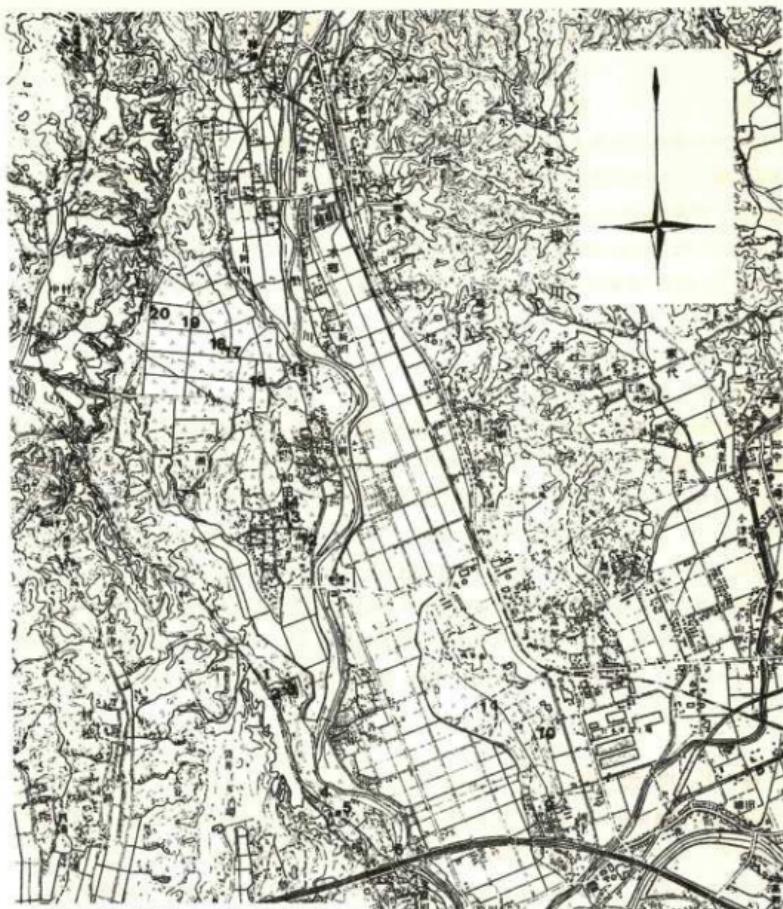
周辺の地形をみると、掛川市の北方、八高山の麓から発する原野谷川が多くの開折谷や河岸段丘を形成しながら流下し、本郷地内でその流れを南に変えている。この地域から南にかけては幅0.5kmから1kmの沖積地や左岸の本郷地区、右岸の和田岡地区には河岸段丘が形成されている。和田岡地では上位・中位・下位の三段にわたって段丘がみとめられる。上位段丘は標高54~66m内外、中位段丘は標高51~56m内外、下位段丘は30~40m内外である。また、高田原においては吉岡原の中位段丘に続くもので標高41~51m内外である。そして谷を隔てた南の各和原では上位段丘が標高43~50m内外、中位段丘が標高34~36m内外、下位段丘が30m内外である。金塚原遺跡の存するのは上位段丘のなかほどである。

3. 歴史的環境

つぎに金塚原遺跡周辺の歴史的環境についてみると、原野谷川流域にはこれまでの調査から縄文時代をはじめ、各時代の遺跡が分布していることが明らかくなっている。

このなかで時代についてみると、原野谷川右岸原田地区では和田遺跡、大郷遺跡、上ノ段遺跡、松下遺跡、花ノ木沢遺跡、堂山遺跡、萩ノ段遺跡、中ノ段遺跡、平遺跡、上ノ段遺跡、雨垂遺跡などが分布し、和田岡地区では、吉岡原には城ノ腰遺跡、東原遺跡、溝ノ口遺跡、中原遺跡、高田上ノ段遺跡、高田下ノ段遺跡、吉岡原遺跡などの遺跡が分布している。つぎに吉岡原に続く高田原段丘上には、女高遺跡、高田遺跡、女高古墳群、高田古墳群、高田瓢塚古墳群、東登口古墳群、藤六古墳群、谷房ヶ谷古墳群が存する。

高田原段丘上の南側の小冲積平野を隔てて北から南にのびる各和原段丘上には全域が弥生時代の遺跡包蔵地である。北から、今回一部分を調査することになった高田金塚原遺跡各和金塚原遺跡をはじめ、南側の中位段丘上には松ヶ谷遺跡、山下遺跡などが包蔵されている。



1. 高田金鉄原遺跡
2. 各和金鉄原遺跡
3. 各和金塚古墳群
4. 松ヶ谷古墳
5. 永源寺古墳群
6. 山下遺跡
7. 原川遺跡
8. 橋北遺跡
9. 八幡神社古墳群
10. 神明塚古墳
11. 間津原遺跡
12. 高田瓢塚古墳
13. 女高遺跡
14. 行人塚古墳
15. 春林院古墳
16. 下ノ段遺跡
17. 吉岡大塚古墳
18. 中原遺跡
19. 萩ノ口遺跡
20. 東原遺跡

第1図 位置図および周辺遺跡分布図

II 経 過

1. 調査に至る経過

金鉢原遺跡は静岡県遺跡地名表（昭40・昭54）には登載されていない遺跡であり、昭和50年内藤次郎氏、岩井克允により当該地を含めた各和原段丘を踏査した結果、土器の採集によって知られるようになった。そして、昭和56年度に行われた市内遺跡分布調査の結果において確認され、高田金鉢原遺跡として登載された。

金鉢原遺跡の所在する各和地区にかぎらず掛川市域の農家は茶の生産を生活の糧としており、その生産性を向上させるため老化した茶樹改植が行なわれており、年々その規模が増大してゆく傾向にある。

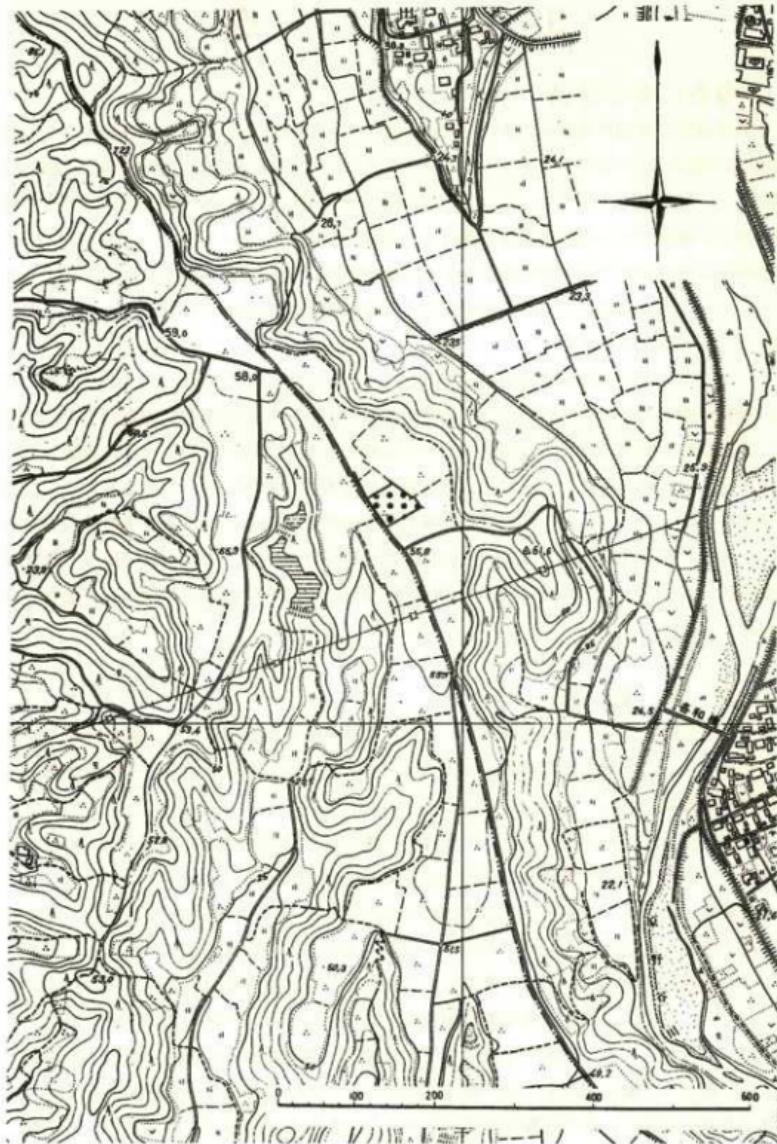
このようななかで土地所有者の鈴木 稔氏から昭和55年度周囲が既に改植がなされており、改植計画があるので、必要ならば遺跡を調査されたい旨掛川市教育委員会へ申入れがあった。掛川市教育委員会では過去において改植に際して遺跡が未調査のまま消滅したこともあり、その歴史踏まないためにも発掘調査の必要性を理解していただくとともに、他に調査をひかえており、2年間程度の改植猶予をお願いした。しかし、生産性の向上を早めたいので、昭和58年度までに調査されたい旨の再申入れがあった。そこで掛川市教育委員会では、この申入れを尊重し、昭和58年度の国および静岡県の補助事業として調査を行なった。

2. 調 査 経 過

調査は発掘調査区域全体の成園となっている茶樹の抜根から開始した。茶樹は既に80年以上を経過し、その間に台切育成しているが老化が著しく、重機が使用できず手作業となり困難をきわめた。

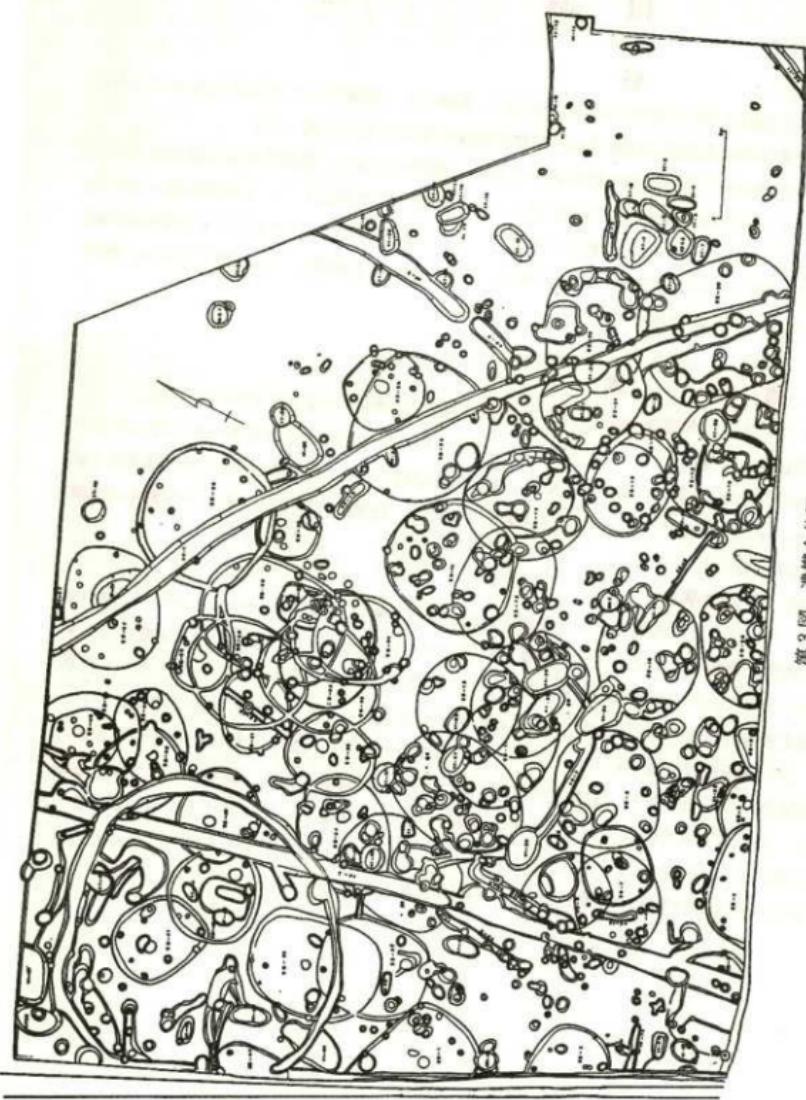
次いで、地形測量に必要な水準点を東方3km離れた県道40号線沿に設置されている一等水準点から移設した。発掘区および周辺の地形測量は縮尺 $\frac{1}{100}$ で行なった。

発掘調査にあたっては隣地への遺跡の拡がりを確認するため発掘区域の周囲にトレントを設定し確認したところ、全域にわたって遺構が重りあって包蔵されていることがわかった。この全域を発掘調査、周囲が茶園であるため、堆土は調査区内で処理しなければならなかった。このため、調査区を北側と南側の2区に分け、それぞれ北区、南区と名付けて南区から調査に入った。南区の土砂は北区へ移動し、調査が済めば南区へ戻し、次に北区の土砂は南区へ移動し調査を行ない埋戻す方法をとった。発掘調査した結果見いだされた遺構は多数にのぼり、その性格がほぼ明らかになったものは合計126基である。この外、小穴など多数見いだされた。その時期は弥生時代の中期から後期におよぶものであった。



第2図 高田金鋳原遺跡周辺環境図

第3圖 遺體全体圖



III 調査

1. 土層

金鉄原遺跡は北から南にのびる段丘上に、茶畠として開墾されて平坦状となっているため、堆積状態は地山まで攪乱され、遺構の破壊は著しいものがあった。

層位を地表からみると第Ⅰ層は表土であり、耕作土である。黒褐色を呈し厚さは5~15cmである。第Ⅱ層は開墾のため攪乱著しく、黒褐色土と暗黒色土とが不規則に混っている土層で、下位になるほど暗黒色土が多くなっている。厚さは5~20cmである。第Ⅲ層は暗黄色粘土層の地山で遺構面である。地山を20~40cmほど開墾によって掘下げられ、耕作土に変わったと推定される。

2. 遺構

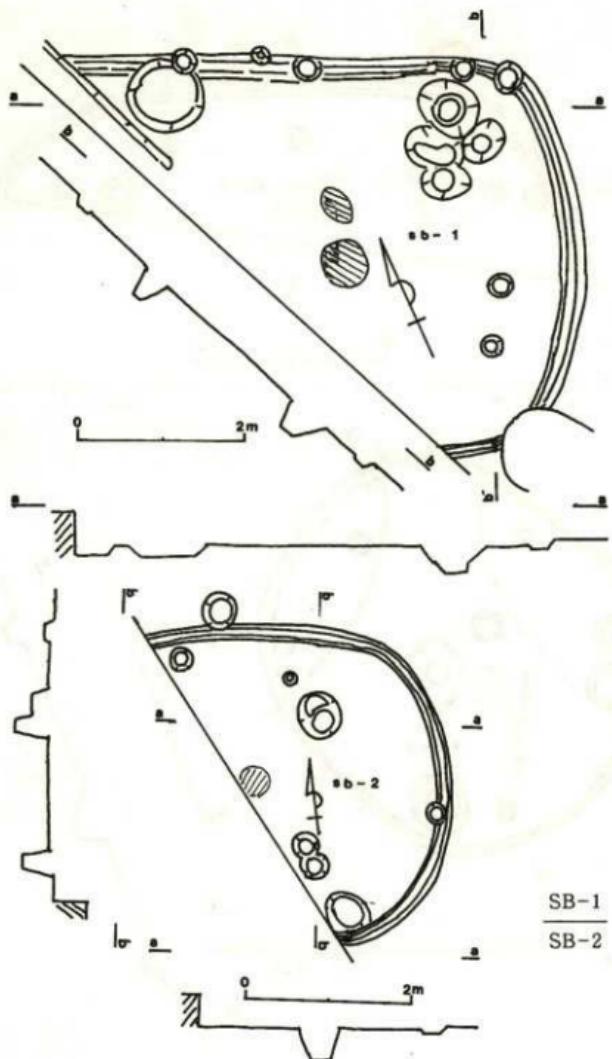
このたびの発掘調査の結果、明らかにされた遺構は、調査区の全域にわたっていた。

発掘された遺構はすべて弥生時代のものとみられ、その性格がほぼ明らかとなったものは堅穴住居跡50軒、一本柱の小堅穴4軒、溝状遺構15条、土塙墓56基、円形周溝墓1基のあわせて126基である。これらの遺構の平面図、規模、時期等は、表1から表4の遺構一覧表に示した。

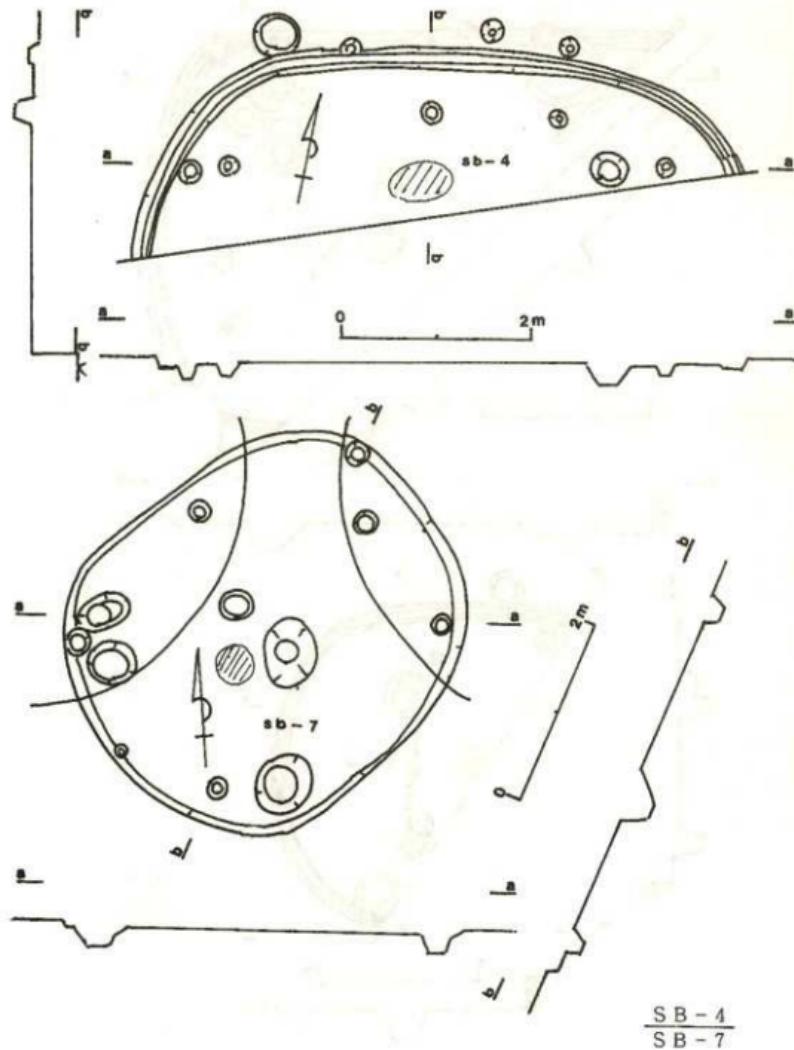
① 堅穴住居跡

このたびの発掘調査によって発掘された堅穴住居跡は50軒にのぼった。これらは他の堅穴住居と重複していたり、また密集したりしていた。そのうえ、茶園として開墾して以来、長い年月にわたって畠間などが深耕されているなど管理がゆきとどいていたことから住居跡床面まで攪乱あるいは削平されたものがすべてであったと言っても過言ではない。

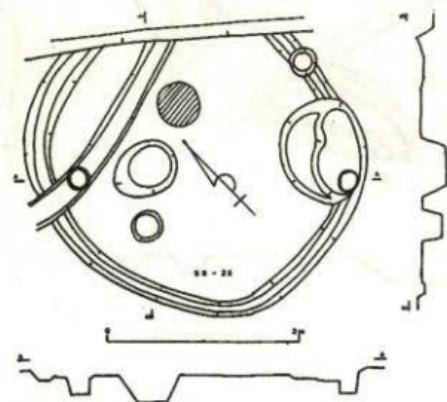
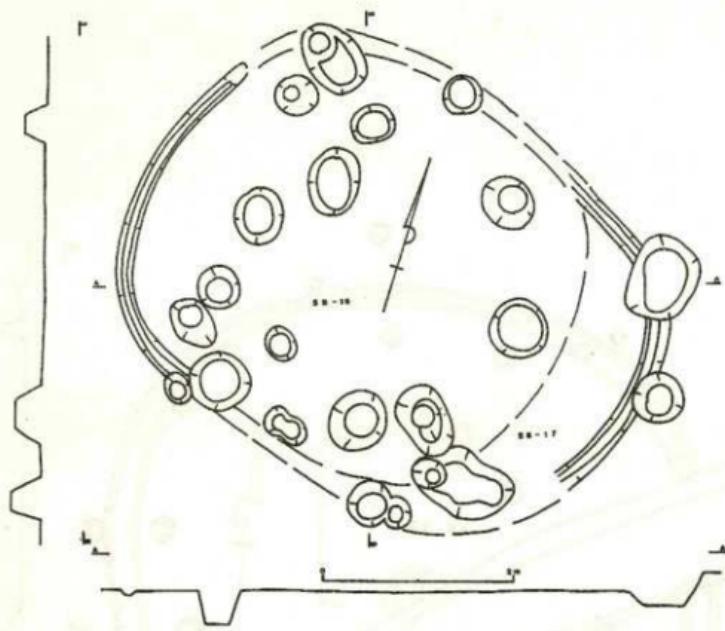
堅穴住居跡は平面形についてみると、不整円形のもの（A類）、橢円形のもの（B類）、胴張隅の長方形のもの（C類）の3種にわけることが可能である。規模については、遺構の一部が調査区外におよんでいるものを除いても、A類にあっては長径4.5m~8mまで、B類にあっては3.5m~7m、C類にあっては3m~8mのものがみられた。このうち6mをこす大形の堅穴住居跡が26軒と全体の半数をしめている。



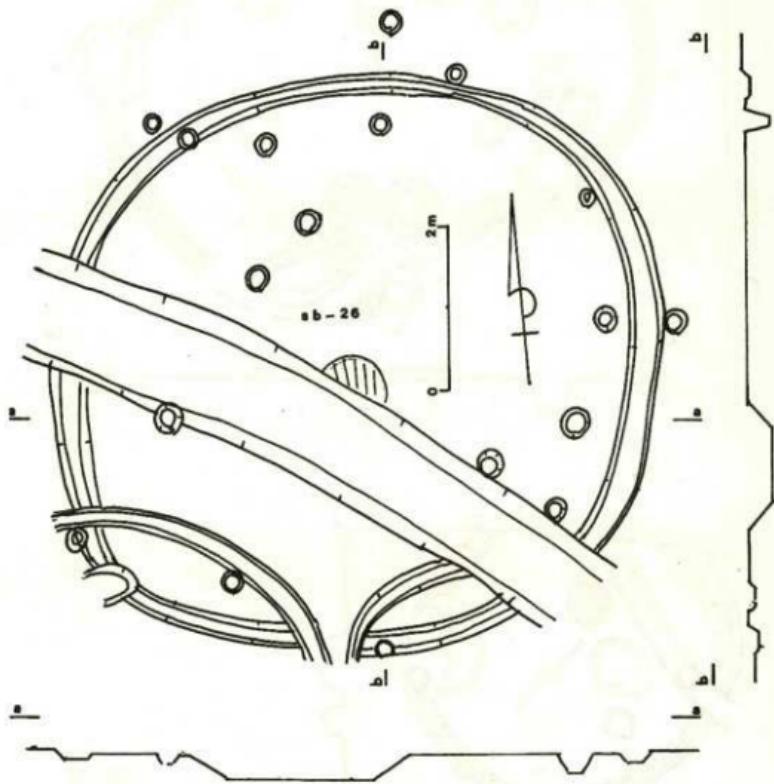
第4図 堅穴住跡実測図 (1)



第5図 堅穴住居跡実測図 (2)

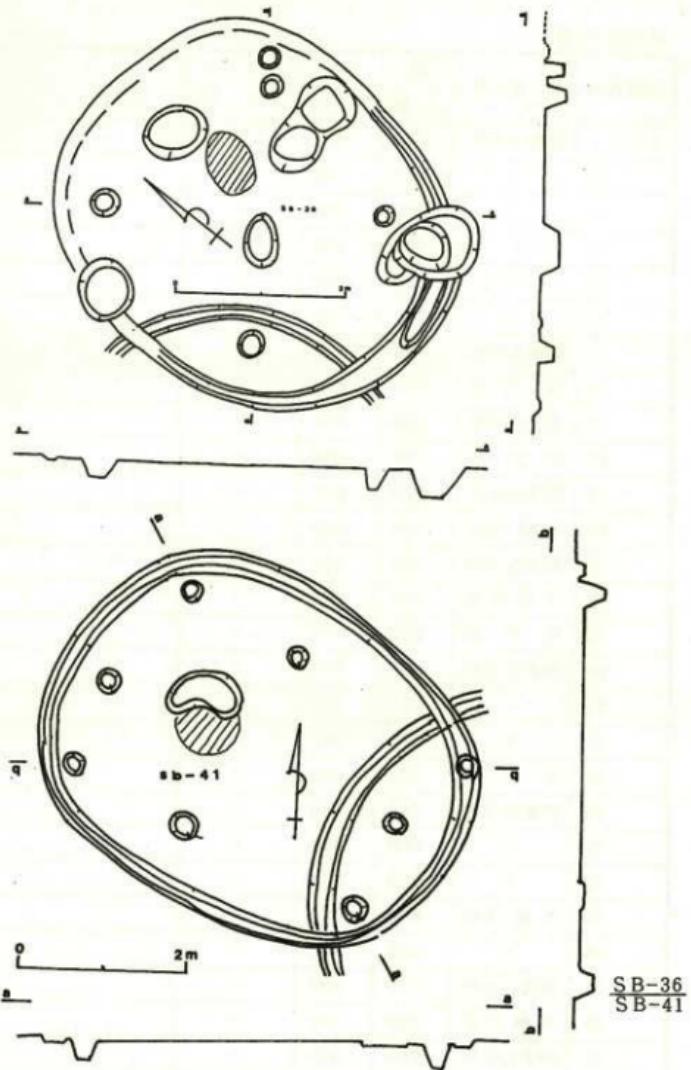


第6図 壓穴住居跡実測図 (3)



SB-26

第7図 竪穴住居跡実測図 (4)



第8図 積穴住居跡実測図 (5)

表1 壘穴住居跡一覽表

壘穴住居跡

遺構番号	平面形	規 模		遺 物	備 考
		長 軸	短 軸		
S B - 1	胴張長方形	※ 650	600	土 器	
2	"	※ 400	380	"	
3	"	※ 550	300	"	
4	"	※ 600	※ 220	"	
5	-	※ 220	※ 200	"	
6	-	※ 290	※ 130	"	
7	胴張長方形	450	400	"	
8	椭 圓 形	500	420	"	
9	胴張長方形	650	580	"	
10	椭 圓 形	700	660	"	
11	胴張長方形	660	500	"	
12	不 整 圓 形	600	570	"	
13	胴張長方形	700	500	"	
14	不 整 圓 形	750	700	"	
15	椭 圓 形	700	600	"	
16	胴張長方形	500	470	"	
17	"	620	470	"	
18	"	620	460	"	
19	椭 圓 形	450	400	"	
20	胴張長方形	450	※ 250	"	
21	"	600	540	"	
22	"	700	670	"	
23	不 整 圓 形	800	740	"	
24	"	450	400	"	
25	胴張長方形	370	320	"	
26	不 整 圓 形	800	750	"	
27	胴張長方形	700	530	"	
28	"	800	640	"	

遺構番号	平面形	規 模		遺 物	備 考
		長 軸	短 軸		
SB-29	胴張長方形	440	330	土 器	
30	椭 圓 形	690	600	"	
31	"	470	400	"	
32	"	700	600	"	
33	"	690	500	"	
34	"	700	500	"	
35	胴張長方形	300	230	"	
36	椭 圓 形	500	450	"	
37	"	700	500	"	
38	胴張長方形	600	560	"	
39	"	740	560	"	
40	不 整 圓 形	※ 530	580	"	
41	胴張長方形	※ 530	430	"	
42	"	600	450	"	
43	椭 圓 形	※ 500	400	"	
44	胴張長方形	530	500	"	
45	椭 圓 形	350	330	"	
46	胴張長方形	520	450	"	
47	"	※ 200	420	"	
48	"	700	550	"	
49	"	780	600	"	
50	"	700	550	"	

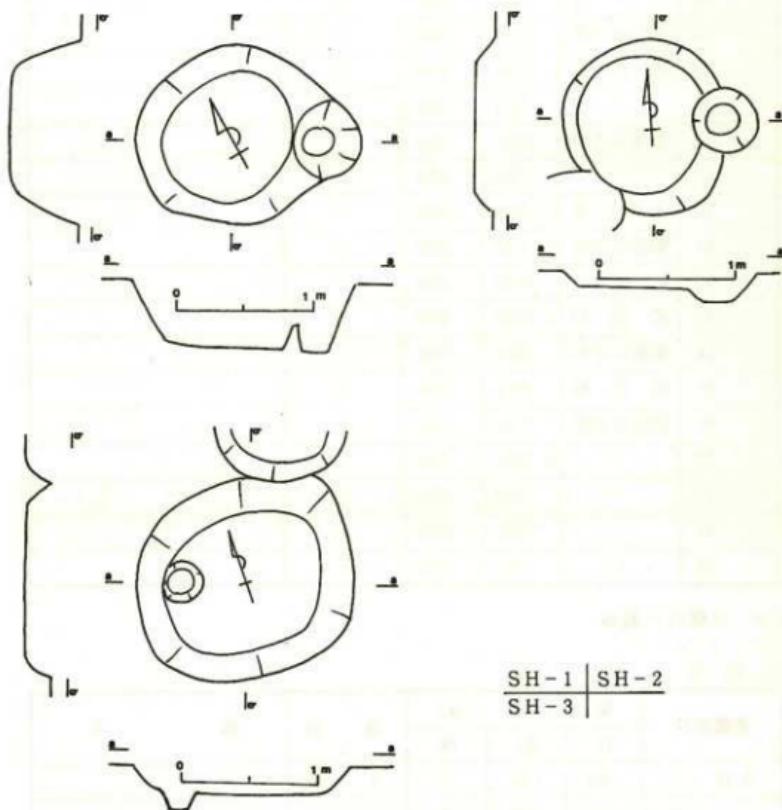
表 2 小堅穴一覽表

小 堅 穴

遺構番号	規 模 (cm)			遺 物	備 考
	長	短	深		
S H - 1	160	135	53	土 器	
2	162	150	20	"	
3	148	140	56	"	
4	160	110	64	"	

② 小 穫 穴

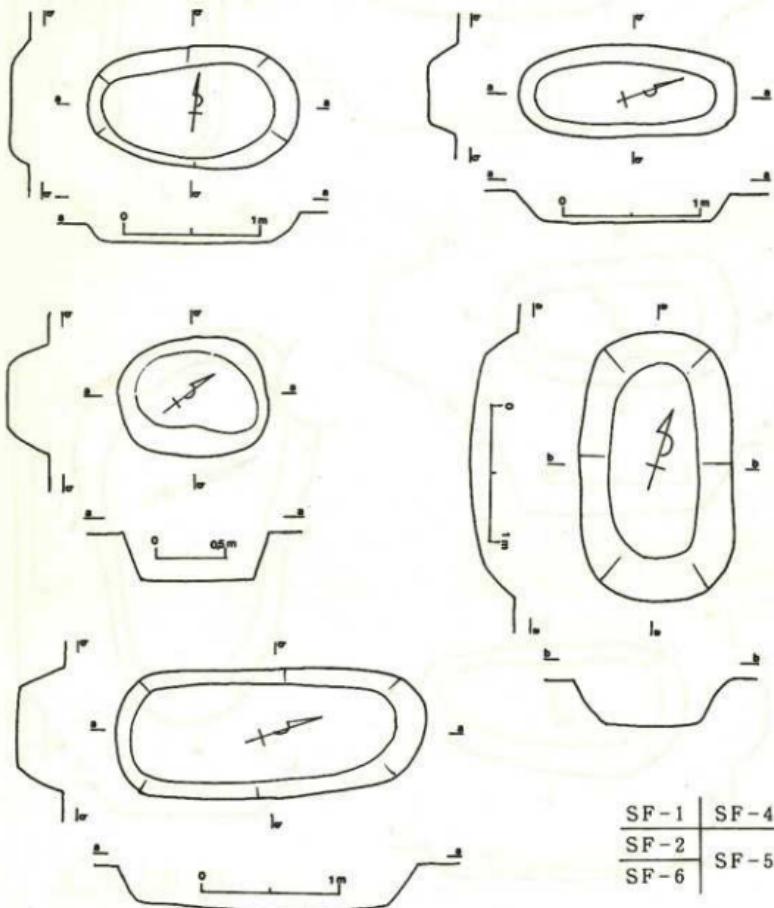
ここで取り扱う小竪穴は一本柱のある竪穴である。小竪穴の一個所に柱を立て屋根を葺いたものとみられる。平面形はいずれも不整円形を呈するもので、規模は長軸 160 cm 内外、短軸 130 cm 内外、深さ 40 cm 内外であった。小竪穴は 1 号を除いていずれも竪穴住居跡に隣接して造られていた。



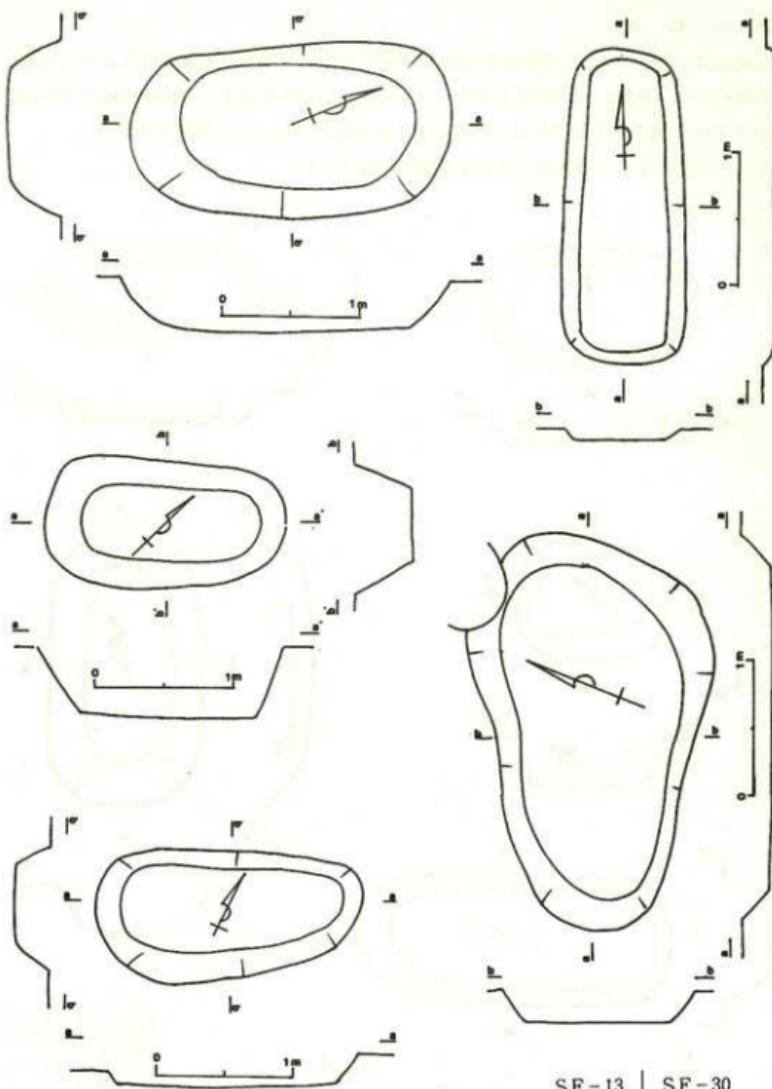
第 9 図 小竪穴実測図

③ 土 塚 墓

上塚墓は 56 基にのぼり、調査区全域から発掘された。平面形は不整円形のもの（A類）、橢円形のもの（B類）、隅円長方形のもの（C類）に分けられる。規模は長軸が 50 cm 内外から 2 m を越すものまであり、なかでも 1 m を越すものがその半数を占める。いずれの土塚内から土器小片と挙大の川原石が出土した。

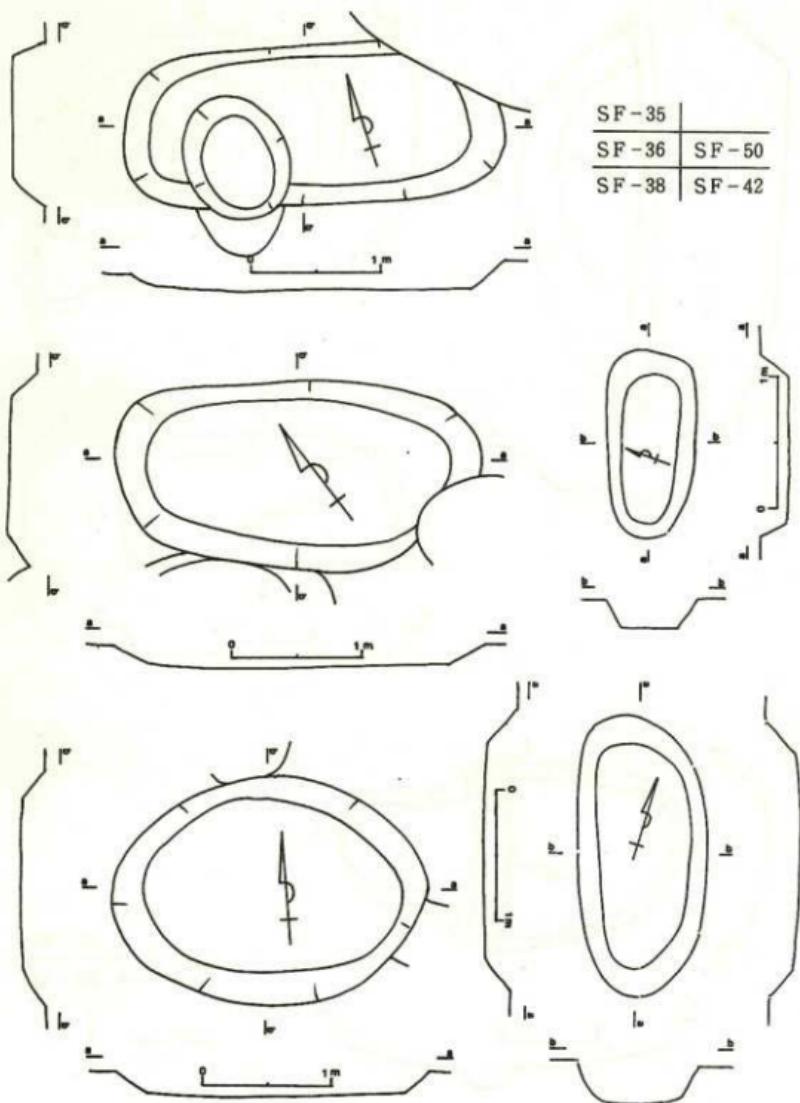


第 10 図 土塚墓実測図 (1)

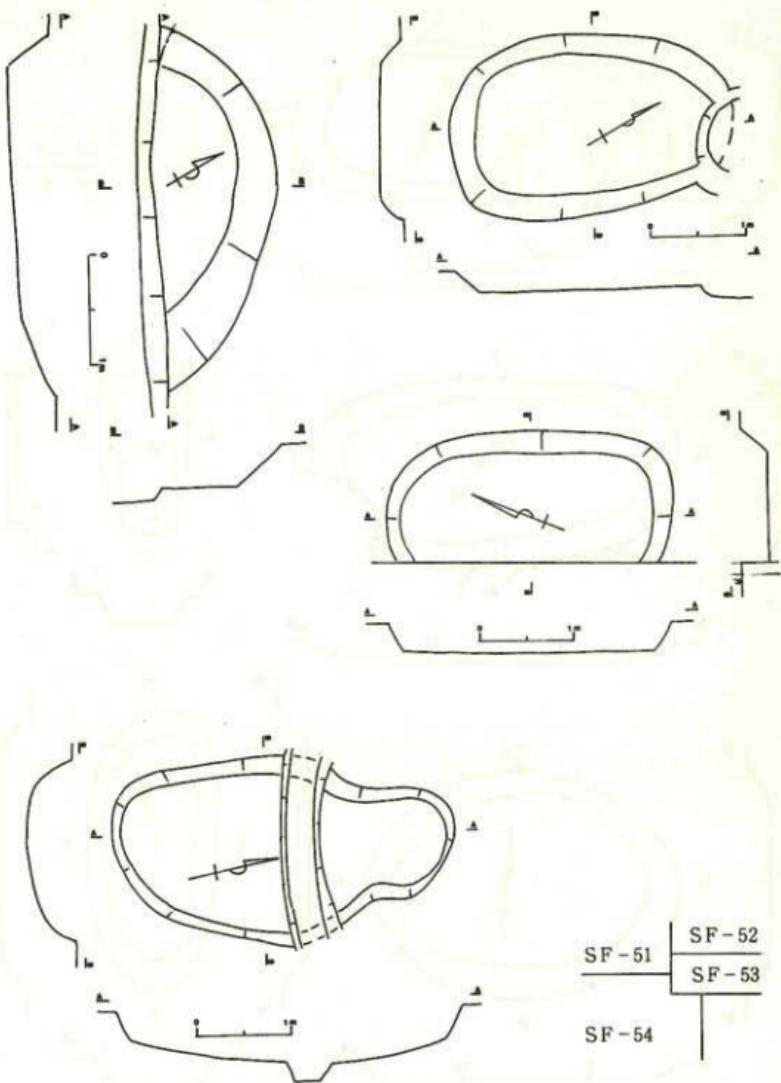


第 11 図 土塚墓実測図 (2)

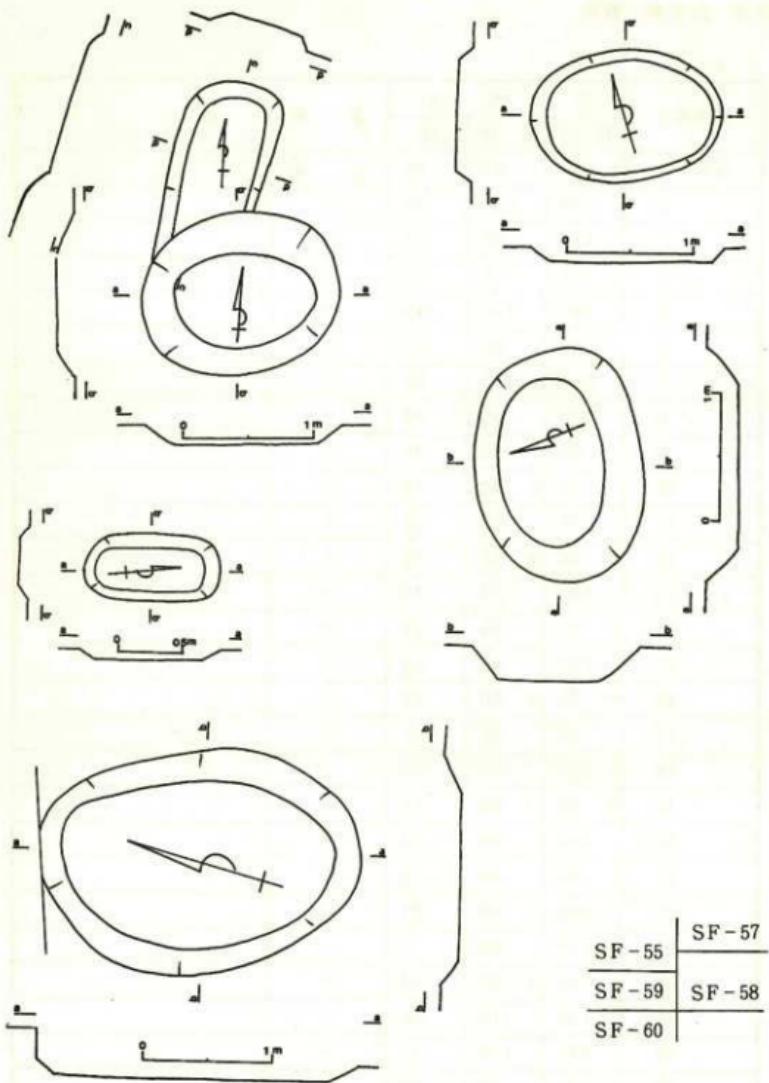
SF-13	SF-30
SF-15	SF-34
SF-20	



第 12 図 土塚墓実測図 (3)



第 13 図 土塚墓実測図 (4)



第 14 図 土塚墓実測図 (5)

表3 土塚墓一覧表

土 塚 墓

遺構番号	規 模 (cm)			遺 物	備 考
	長 徑	短 径	深		
S F - 1	150	85	25	土 器	
2	160	150	26	"	
3	115	85	22	"	
4	157	70	24	"	
5	195	110	35	"	
6	230	95	35	"	
7	250	155	50	"	
8	240	90	35	"	
9	80	60	28	"	
10	75	※ 45	42	"	
11	75	60	28	"	
12	※ 36	※ 55	25	"	
13	242	124	40	"	
14	75	95	56	"	
15	120	95	54	"	
16	※ 70	※ 50	28	"	
17	50	35	27	"	
18	※ 100	110	24	"	
19	※ 50	66	15	"	
20	190	95	25	"	
21	65	60	10	"	
22	105	90	21	"	
23	※ 110	105	7	"	
24	150	※ 140	34	"	
25	125	115	50	"	
26	192	110	43	"	
27	125	70	70	"	
28	125	85	15	"	

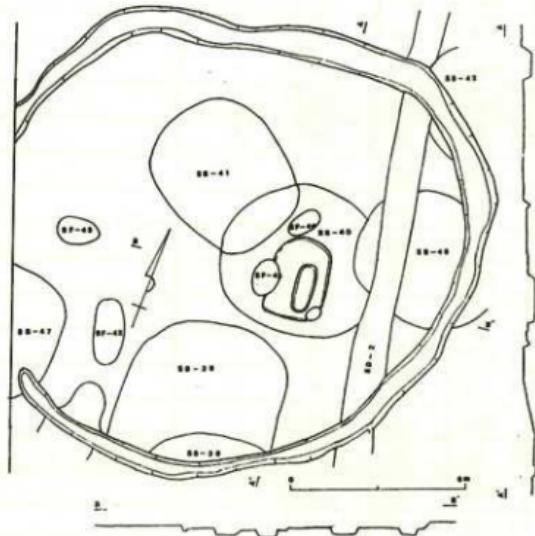
遺構番号	規 模 (cm)			遺 物	備 考
	長 径	短 径	深		
S F - 29	180	150	30	土 器	
30	227	90	14	"	
31	122	95	10	"	
32	225	85	40	"	
33	210	136	34	"	
34	255	135	25	"	
35	286	120	40	"	
36	262	145	35	"	
37	178	130	60	"	
38	240	170	40	"	
39	195	94	35	"	
40	※ 30	75	50	"	
41	120	65	26	"	
42	210	100	25	"	
43	115	85	33	"	
44	110	55	40	"	
45	154	80	54	"	
46	※ 145	100	33	"	
47	※ 75	30	47	"	
48	132	115	32	"	
49	※ 95	70	32	"	
50	142	70	20	"	
51	※ 166	※ 58	42	"	
52	※ 154	94	23	"	
53	150	70	32	"	
54	182	98	56	"	
55	※ 110	75	65	"	
56	145	100	24	"	

④ 円形周溝墓

円形周溝墓は北西端近くに築造されていた。西側に埋葬塚への入口部を設けている。平面形は東西方向にやや長い不整円形を呈しており、規模は長径 17 m、短径 15.5 m であった。周溝は幅約 1 m、深さ約 40 cm であった。埋葬塚は周溝の中央やや東寄り部分に造られており、その周囲には拳大の川原石を北側で 80 cm、東側で 30 cm、西側で 80 cm の規模で敷きならべてあった。

埋葬塚の平面形は隅円長方形を呈し、規模は長さ 160 cm、幅 60 cm、深さ 32 cm であった。

円形周溝墓の築造された時期は埋葬塚内部から出土した土器小片から弥生時代後期とみられる。



第 15 図 円形周溝墓実測図

表 4 円形周溝墓計測表

単位 cm

平面形	全体 規 模		主 体 部 規 模			遺 物	備 考
	長 軸	短 軸	長 軸	短 軸	深		
不整円形	17	15.5	1.6	0.6	0.3	土 器	

⑤ 溝状遺構

溝状遺構は小溝から大溝まで 15 条ほどみられた。SD-1 は北西から南東方向へ流下し、SD-2 は北から南へ、SD-3 と 4 はゆるやかに弧を描いて北方へ続いている。SD-11 は北東から南西へと続いているとみられる。これらの溝状遺構はいずれも堅穴住居跡、土塹墓など集落と密接とかかわりをもつものである。

表 5 溝状遺構一覧表

溝状遺構

遺構番号	断面図	規模 (m)			遺物	備考
		長	幅	深		
SD-1		4.6	1.2	0.3	土器・石器	
2		4.1	1.2	0.2	"	
3		9.2	1.2	0.6	"	
4		4.5	1.2	0.9	"	
5		4.5	0.6	0.2	"	
6		4.7	0.3	0.6	"	
7		7.0	0.8	0.1	"	
8		7.0	0.7	0.3	"	
9		6.0	0.7	0.2	"	
10		4.5	0.5	0.2	"	
11		2.7	0.9	0.2	"	
12		2.5	0.7	0.4	"	
13		2.5	0.4	0.9	"	
14		2.8	0.4	0.2	"	
15		4.0	0.4	0.2	"	

3. 遺 物

調査区からは土器と石器が出土した。遺物は各種の遺構の重複、削平などを考慮に入れて概略のべると、出土した土器は弥生時代中期初頭の弥生式土器の波及期から後期にかけてのものが多く、なかでも後期のものがその多くを占めている。

石器は多くは出土しなかった。出土した石器は石斧・敲石・石鑿などのほか、用途が詳かでない頁岩の半製品などである。

IV ま と め

このたびの発掘調査の結果から高田金鉢原遺跡の特徴とみられることがらを二、三のべてまとめとしたい。

- 1 各和原段丘上の掛川市域には弥生時代中期初頭から人々が本地域を中心に生活を営むようになったとみられるが、集落の規模は大きくなかったようである。
- 2 つぎの弥生時代後期になると堅穴住居跡をはじめ、円形周溝墓などの諸遺構がみられるところから、集落の規模が拡大されたことがうかがえる。
- 3 高田金鉢原遺跡は沖積地を見おろす各和原上位段丘上に営まれた弥生時代中期初頭から後期にかけて、集落の中心として栄え、そして古墳時代へと続いた高地性の集落遺跡であった。

図 版



高田金鑄原遺跡 (○印) (上空南から)



(1) 潟状遺構 1、土塚墓 26、堅穴住居跡 15、16、17、21（東から）



(2) 南区遺構を北西から望む

図版 III

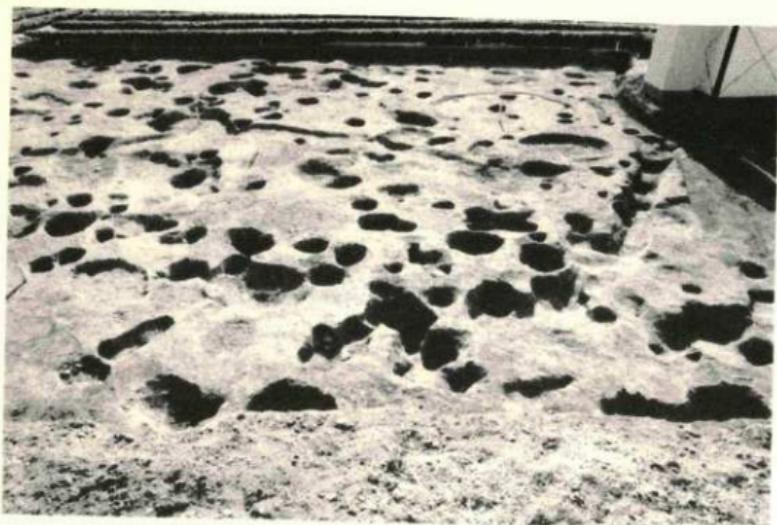


(1) 溝状遺構 1 (右)、3 (左)、4 (中央) (南区北端から)



(2) 溝状遺構 (南区北端から)

図版 IV



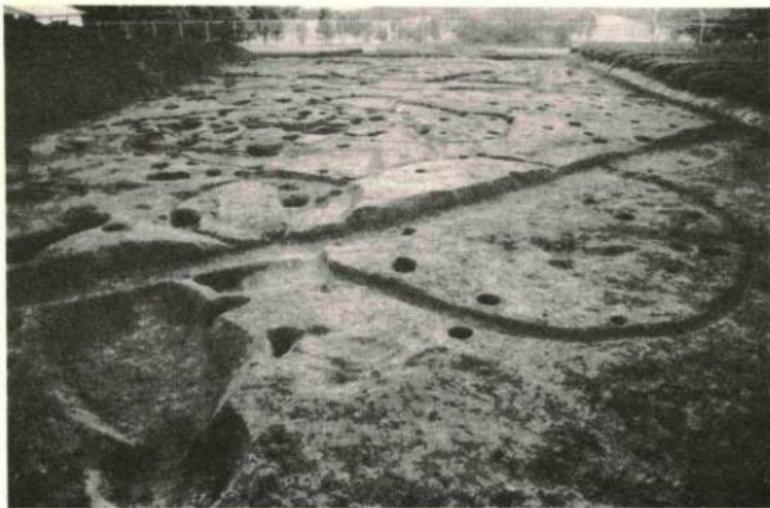
(1) 積穴住居跡 7、8、9、11、12、59（南区北端から）



(2) 積穴住居跡 2、3、溝状遺構 2、南端部（南区北端から）



(1) 竪穴住居跡 42、43、44、45、円形周溝墓 2（北区中央から西側を望む）



(2) 竪穴住居跡 26、土 墓 52、溝状遺構 1（北区東から）

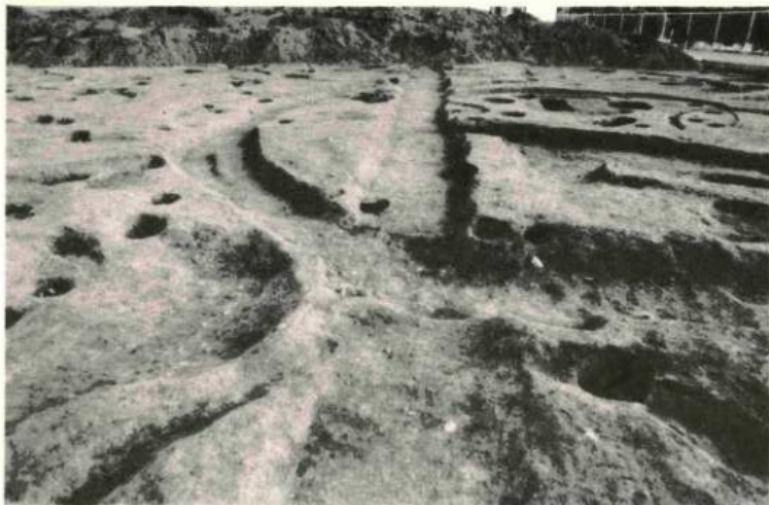


(1) 竪穴住居跡 23、24、25、26、溝状遺構 1（北区東側南端から）



(2) 竪穴住居跡 14、29、30、31、32、34、35、36（北区中央南端部から）

図版 VII



(1) 溝状遺構 2、円形周溝墓の周溝（北から）

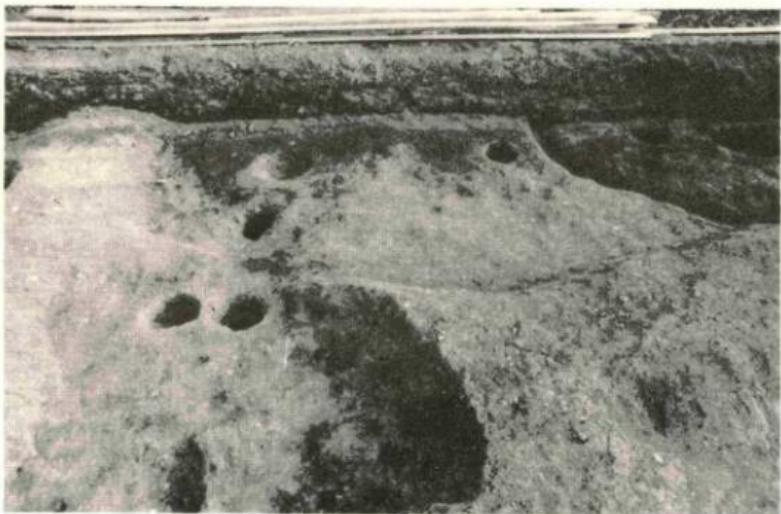


(2) 堪穴住居跡 33、39、40、41、円形周溝墓（南から）

図版 VIII



(1) 堪穴住居跡 4 (北から)



(2) 堪穴住居跡 4、5 (北から)



(1) 壴穴住居跡 7、5 (南西から)



(2) 壴穴住居跡 14 (北西から)



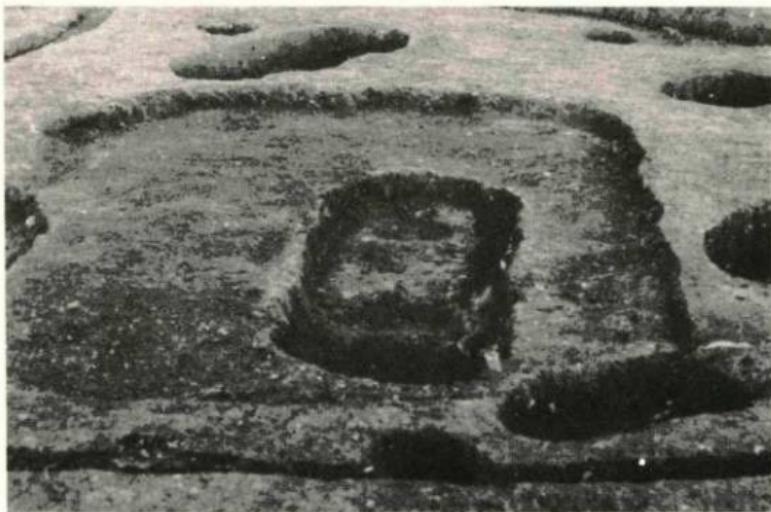
(1) 積穴住居跡 16、17 (北から)



(2) 積穴住居跡 18、19、(北から)



(1) 積穴住居跡 40、41、円形周溝墓主体部（北西から）



(2) 円形周溝墓主体部（南から）



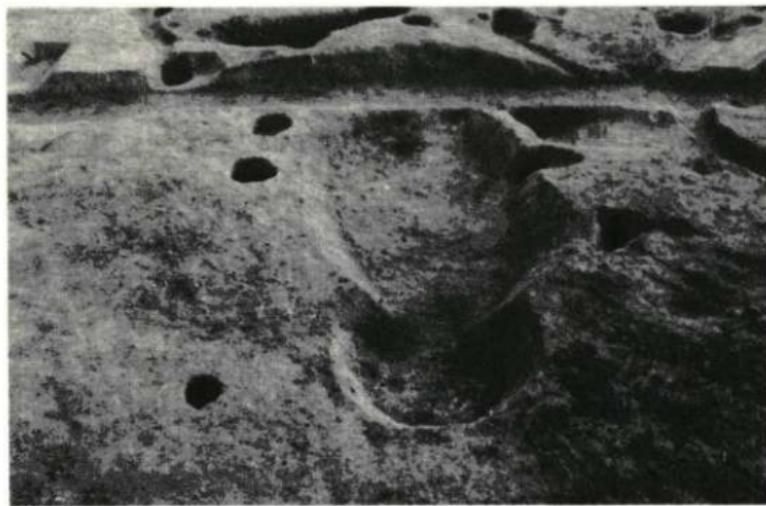
(1) 土塚墓 14、15、16、17、18（北から）



(2) 土塚墓 30（北から）

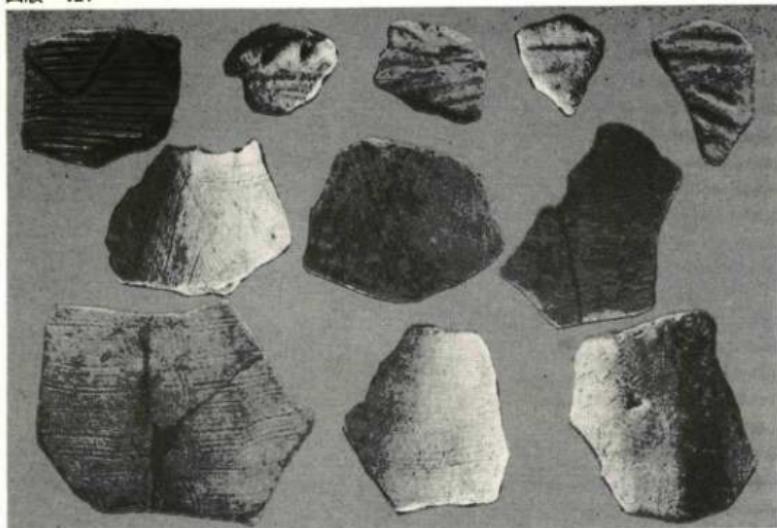


(1) 土塚墓 34 (東から)

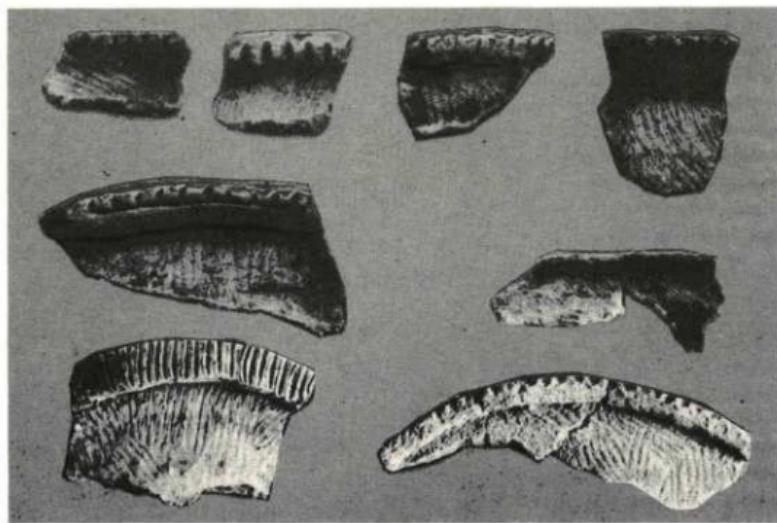


(2) 土塚墓 25、52 (東から)

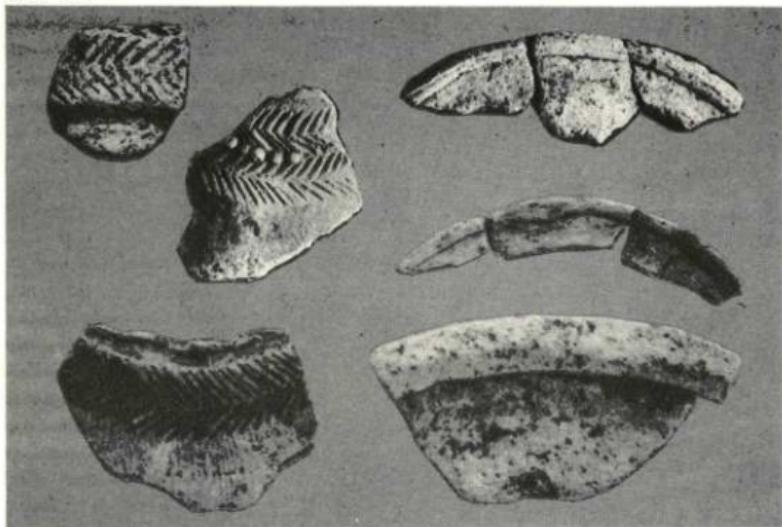
图版 XIV



(1) 出土遗物 (土器)



(2) 出土遗物 (土器)



(1) 出土遺物 (土器)



(2) 出土遺物 (石器)

